

【芸術科】

1 芸術科における課題

- 感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められる。(音楽)
- 感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められる。(美術、工芸)
- 書の伝統と文化を踏まえながら、生徒が感性を働かせて、表現と鑑賞の相互関連を図りながら能動的に学習を深めていくことや、書への永続的な愛好心を育むこと等については、更なる充実が求められるところである。(書道)

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成28年12月 中央教育審議会(答申)】

2 芸術科教育に求められるもの

- 高等学校芸術科は、芸術への永続的な愛好心を育み、感性を高め、豊かな情操を養う教科であり、一人一人がそれぞれの興味・関心や個性を生かして、芸術と幅広く、かつ、多様な観点から主体的に関わっていくこと。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成28年12月 中央教育審議会(答申)】

3 学習指導要領の主な改善点について(高等学校)

音楽

- ・ 「知識」に関する指導内容について、「曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり」を理解することなどの具体的な内容を、歌唱、器楽、創作、鑑賞の領域や分野ごとに事項として示された。
- ・ 「B鑑賞」に、「自分や社会にとっての音楽の意味や価値」、「音楽表現の共通性や固有性」などについて考えることが事項として示された。
- ・ 表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力として、〔共通事項〕が新設された。
- ・ 「音楽Ⅲ」の内容の取扱いにおいては、「A表現」と「B鑑賞」の両領域の内容を必ず扱うこととされた。

美術

- ・ 「B鑑賞」の内容が、アの「美術作品など」、イの「美術の働きや美術文化」に関する事項に分けて示された。
- ・ 感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し、表現や鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力を育成する観点から、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉えることができるよう、造形的な視点を豊かにするために必要な知識が〔共通事項〕として新設された。
- ・ 内容の取扱いに、「美術Ⅲ」においても「A表現」と「B鑑賞」の両領域の内容を必ず扱うこととし、「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図り学習が深められるように示された。

工芸

- ・ 「B鑑賞」の内容が、アの「工芸作品など」、イの「工芸の働きや工芸の伝統と文化」に関する事項に分けて示された。
- ・ 感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し、表現や鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力を育成する観点から、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉えることができるよう、造形的な視点を豊かにするために必要な知識が〔共通事項〕として新設された。
- ・ 内容の取扱いに、「工芸Ⅲ」においても「A表現」と「B鑑賞」の両領域の内容を必ず扱うこととし、「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図り学習が深められるように示された。

書道

- ・ 「知識」に関する指導内容について、「書の表現の方法や形式、多様性」を理解することなどの具体的な内容が、表現領域の三分野や鑑賞領域ごとに事項として示された。
- ・ 表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力として〔共通事項〕が新設された。
- ・ 「B鑑賞」において、「作品の価値とその根拠」、「生活や社会における書の効用」、「書の現代的意義や普遍的価値」などについて考えることが事項として示され、書のよさや美しさを味わって捉えることができるようにされた。
- ・ 「書道Ⅲ」では「A表現」の「(1)漢字仮名交じりの書」、「(2)漢字の書」、「(3)仮名の書」又は「B鑑賞」のうち一つ以上を選択して扱うことができるとしていたが、「A表現」と「B鑑賞」の両領域の内容を必ず扱うこととされた。

【高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽、美術、工芸、書道)編 音楽 美術編 平成30年7月 文部科学省】